

日本ナシ「幸水」の枝葉の充実のための収穫後せん定法							
<p>【要約】 日本ナシ「幸水」では、9月の<u>収穫後せん定</u>により発育枝の充実が良くなり、花芽の着生が増加する。収穫後せん定の程度は、強すぎると次年度の初期生育が劣るため、冬季せん定量の1/3以内とする。</p>							
園芸研究所・果樹部・落葉果樹研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専門	栽 培	対象	果樹類	分類	普及

【背景・ねらい】

気候が温暖で生育期間中の降水量が多い九州では、日本ナシ「幸水」の生育は旺盛で徒長傾向が強く、新梢伸長停止期の遅れや樹冠の過繁茂により発育枝の充実不良、着花不足を来し、生産不安定の原因となっている。そこで「幸水」を用いて収穫後せん定による枝葉の充実及び安定生産技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

- ①収穫後（9月）せん定は、当年度の発育枝の充実を良くし花芽の着生を増加させる（表1、表2）。また、収穫後せん定を実施した樹は翌年の葉面積が増加し、発育枝の二次伸長が少なくなる（表1）。
- ②9月下旬の収穫後せん定は、せん定程度が強いと次年度の満開後30日の葉色が淡く、発育枝長は短くなり、生育初期の樹勢低下がみられる（表3）。満開後80日時点では発育枝、徒長枝とも強せん定区で伸長停止が遅れ、特に徒長枝は遅伸び傾向が強くなる（表3）。

【成果の活用面・留意点】

- ①露地栽培の幸水の収穫後せん定を実施する場合に活用する。
- ②収穫後せん定程度が強すぎると次年度以降の樹勢低下を招くため、樹勢の弱った樹では徒長枝や不要な側枝の間引きに止め、収穫後せん定は行わない。

[具体的データ]

表1 幸水の収穫後せん定と発育枝の生育 (平成3~4年)

処理区	当年度発育枝			次年度発育枝	
	枝長	基部径	頂花芽数	葉面積	伸長停止率
	cm	mm	芽/本	cm <sup>2</sup>	%
収穫後せん定区	74.9	9.7	0.5	85.9	95.9
収穫後無せん定区	77.2	9.5	0.2	76.5	92.7

注) ① 収穫後せん定は平成3年9月5日に側枝単位で行い、切除葉率は45%。  
 ② 平成3年は、6~7月の日照不足、台風による早期落葉で腋花芽はゼロ。

表2 幸水の生育期のせん定時期と発育枝の花芽着生 (平成5年)

せん定時期	発育枝長	頂花芽数	腋花芽数
	cm	芽	芽
7月	94	0.6	2.1
7月+9月	87	0.4	3.0
無処理区	98	0.3	1.2

注) ① 7月区：7月28日に全徒長枝をせん除。  
 ② 7+9月区：7月28日に全徒長枝の半数、9月27日に残りの全徒長枝をせん除。

表3 幸水の収穫後せん定程度と次年度の生育 (平成5年)

収穫後せん定程度	満開後30日			満開後80日						L A I
	果叢葉		発育枝 枝長	発育枝			徒長枝			
	葉数	葉色		枝長	本数	停止率	枝長	本数	停止率	
	枚		cm	cm	本/m <sup>2</sup>	%	cm	本/m <sup>2</sup>	%	
強せん定区	6.1	29.9	22	77	5.5	92.2	129	1.1	49.0	2.4
中せん定区	6.4	31.6	25	73	4.2	98.3	123	0.7	75.2	2.5
無処理区	5.3	30.8	29	85	4.8	95.8	127	2.5	71.1	2.8

注) ① 収穫後せん定は平成4年9月27日に行い、強せん定区は冬季せん定量の約半分 (側枝の切り返しも含む) をせん除、中せん定区は冬季せん定量の約1/3 (間引きのみ) をせん除。

[その他]

研究課題名：好適生育成熟パターンへの誘導技術 (新梢及び果実管理法)

予算区分：国庫 (地域重要)

研究期間：平成5年度 (平成2~5年)

研究担当者：林公彦、牛島孝策、千々和浩幸、姫野周二、吉永文浩、鶴丈和、恒遠正彦

発表論文等：平成2~5年度落葉果樹試験研究成績概要集、平成2~5年果樹部成績書